

ジエイミー・ダグラス

- 1 私は名の知れた貴婦人だつたの
 北の国に暮していたとき
 私は名の知れた貴婦人だつたの
 ダグラス伯が私を愛してくれていたとき
- 2 グラスゴーの町を通つたとき
 私たちを見るも華やかな連れ合いだつた
 主人は緑のベルベットに
 私は深紅色に身を包んで
- 3 ダグラス・タウンへやつてきたとき
 私たちを見るも鮮やかな連れ合いだつた
 主人は深紅色に
 私は輝く金色に身を包んで
- 4 最初の息子が生まれ
 乳母の膝にのせたとき
 私は女の幸せを知つたわ
 主人が私を愛してくれたから
- 5 でも二番目の息子が生まれ
 乳母の膝にのせたとき
 私はいつそ死んでしまいたいと思つた
 もう誠実な女とは信じてもらえないのだから
- 6 屋敷に男がやつてきた
 男の名はジエイミー・ロツクハート
 立派な主人は耳にした
 私がこの男と寝たとのうわさを
- 7 屋敷に違う男がやつてきた
 私を陥れた男
 ロツクハートの靴を私のベッドの下へしのばせ
 主人に来て見るよう言つた
- 8 ブラックウッドよ 呪われるがいい
 ひどい死に様をさらすがいいわ
 お前が私と主人の仲を裂いた
 正真正銘の張本人
- 9 主人は私の部屋に入つてきて

このはかりごとを目にし
苦い顔で振り向いて
すぐに別れを申し出た

10
「さらばだ 一度は愛した乙女よ
さらばだ かつてのわが恋人
さらばだ 一度は愛した乙女よ
もう一度と共になることはない」

11
「どうか座つて ジエイミー・ダグラス
ともに食事をいたしましょう
金の椅子を用意するわ
膝には銀のひざ掛けを」

12
「ザル貝の殻が銀の鈴に変わり
ムール貝が木に芽吹き
霜や雪が火となつて炎を上げるなら
座つてお前と食事をしよう」

13
「ブラックウッドよ 呪われるがいい
ひどい死に様をさらすがいいわ
お前が私と主人の仲を裂いた
正真正銘の張本人

14
お父様は
主人が私を捨てたとの知らせを聞いて
五十人の騎兵をよこして
私を祖国へと連れて帰った

15
私が出て行くとき
この住み慣れた屋敷を去るとき
主人の部屋へ行つたけれど
彼は一言も口をきかなかつた

16
「さようなら ジエイミー・ダグラス
さようなら 私の永遠の恋人
さようなら ジエイミー・ダグラス
三人の子供たちには優しくしてね」